

報告



第12回 北東3支部技術交流研修会

技術士（建設／総合技術監理部門） 中西紀雄

1. はじめに

2009年（平成21年）11月6日（金）、第12回北東3支部技術士交流研修会が、日本技術士会の内村副会長を来賓に迎え、KKRホテル札幌にて開催された（出席73名）。

研修会テーマを「変革の時代における地域活性化について」と題し、北陸、東北、北海道の各支部から2編の研修発表について、以下に報告する。

2. 交流研修会の概要

(1) 研修会開会

斉藤北海道支部長から、テーマと、12回目を迎えた北東3支部交流研修会の効果と、役割として中央に対する地方の問題を考えていくべきとの挨拶で開会された。内村副会長から、新しい変革の時代に向け、日本技術士会のメリットを自ら作り出していくことが大事であるとの旨の挨拶があった。

引き続き、各支部の事務局長から、会員数の状況や支部活動について報告された。



写真-1 斉藤北海道支部長



写真-2 大谷事務局長

(2) 研修会

各支部からの研修発表の概要を、以下に示す。

【北陸支部】

発表1 「線引き都市における集落の活性化」

(株)日本海コンサルタント

屋敷 弘

少子高齢化、人口減少などに対し、5万人以下の地方都市の活性化として、都市計画法の区域区分、いわゆる線引き制度による規制緩和により新規居住者を受け入れ、人口を多少なりとも増加することでの集落の活性化、コミュニティの維持を図ることを検討すべき時代に来たと発表された。



写真-3 屋敷技術士

発表2 「中山間地域の維持・再生は可能か」

エヌシーイー(株) 小見 直樹

国土の約7割を占める中山間地域は、食料供給や国土保全などの役割を担う一方で、産業構造等の変化に伴い、人口減少と高齢化が著しく、消滅の危機に瀕する限界集落の数が増加している。2004年（平成16年）の新潟県中越大地震で被害を受けた山古志地域の再生実践事例を中心に発表された。



写真-4 小見技術士

【東北支部】

発表3 「『東北こんそ』における中間支援コンテンツ開発の意義と課題」

宮城大学地域連携センター

古川 隆

人口減少時代の到来により、これまでの右肩上がりを



写真-5 古川技術士

前提とした施策ではコミュニティ機能維持が限界となり、集落の消滅などが懸念される。

新たな公や地域戦略パートナーシップの有効性に着目し、経営資源を多様な主体で相互補完し、地域組織の再編・強化につなげる体制モデルとして、地域づくりコンソーシアムの活動について発表された。

発表4 「奥州街道筋を点から線へ、そして面へ」

㈱福山コンサルタント 海野 伸

道は、古代から現在まで、その目的と機能に応じて変化し、文化、経済の発展に大きく寄与してきた。NPO 奥州街道会議では、奥州街道に数多く残存している遺産や資源を有効に利活用し、交流人口の醸成などや、ほっとくと失われる資源を保存・保全し、後世に引き継ぐことを考え、地域活性化に取り組んでいる支援活動について発表された。



写真-6 海野技術士

【北海道支部】

発表5 「インフラからソーシャルキャピタルへ」

共和コンサルタント(株) 須藤 靖彦

北海道の人口統計データに基づき、リージョナルステート研究会で地域主権のあり方について知見を重ねてきた中で、地域づくりを進める上で「ソーシャルキャピタル：人間関係の豊かさ」が重要な社会資本となっていくことが発表された。



写真-7 須藤技術士

発表6 「学校へ行こう！」

北電総合設計(株) 樋詰 透

近年、若手学生の技術離れが懸念されることから、青年技術士会が理系教育現場に赴き、技術者教育の試行事例について発表された。学生に授業を通し、技術者としての喜びや技術の大切さ、技術士の仕事感や社会的地位を実感し



写真-8 樋詰技術士

てもらった活動として報告された。

(3) 閉会

能登副支部長から閉会の挨拶があり、次回の東北支部での開催に引き継がれた。



写真-9 交流研修会

3. 交流会

研修会後、交流会へと場所を移し、齊藤支部長の挨拶後、大島顧問の乾杯で開始された。アルコールが入り懇親会が盛り上がる中、中山北陸支部長、吉川東北支部長が挨拶され、研修内容やそれぞれの地域などについての意見交換がより一層活発にされた。前回の交流研修会で話題となった「エゾシカ料理」も会話に花を添えたことも報告する。



写真-10 話題のエゾシカ料理



写真-11 交流会での齊藤支部長の挨拶

4. おわりに

北東3支部技術士交流研修会での各支部との発表や交流会での意見交換により、各地域で、様々な分野の多くの技術士が活躍していることを、改めて知ることができた。同じテーマでも、地域に即した対応を知ることができ、私にとって、良い刺激となる研修会であった。次回の東北支部での交流研修の開催を、交流会共々楽しみにする。